

第15回 稲戸井調節池整備・活用検討懇談会の議事概要

議事	No.	質問・意見等	委員会での回答	備考
計画	1	掘削予定地の用地買収はどの程度進んでいるのか。	全体の90%以上の土地は買収済みである。	
	2	全体の掘削計画量800万m3のうち、現在の進捗率はどの程度か。	800万m3の掘削に対して、現在は190万m3まで掘削している。進捗率は、20%程度である。	
	3	維持管理上は調節池底面は少し水を被るくらいが望ましいと考えているのか。	その通りである。 維持・管理にあたり、水面にすることでヤナギ林の繁茂を抑制することが出来るため、維持管理費が抑えられる。また、多様な生息環境も創出できる。	
	4	調節池掘削に伴いトレンチ掘削が行われているが、住民の進入禁止などの安全対策はどのようになっているのか。	トレンチ掘削地は転落防止策が未対応であり、今年度中に木柵を設置する。掘削工事の実施中はトラロープや木柵を設置し、転落防止を図っている。	住民の利用を一律に禁止するだけでなく、立ち入りを禁止するエリア、自己責任で利用してもらうエリアを設定することが重要。
	5	今後、稲戸井調節池について意見とか質問を受け付ける窓口を明確にしてもらいたい。	稲戸井調節池の整備活用に関しては、利根川上流河川事務所の調査課、利活用区域に関しては、守谷市と取手市に窓口を設ける。	
	6	工事の進捗率が20%程度であり工事はまだ続くので、懇談会は解散しないで続けてほしい。	懇談会は今回で一つの区切りとするが、今後も環境調査は継続し、調査結果は利根川上流河川事務所のHPで公表していく。	気づいた点があれば、問合せ窓口に連絡していただく。
環境	7	稲戸井調節池の掘削工事により、地下水位に影響がでるとしたら、何かそれなりの対策を講じる必要はあるだろうと思う。	Y. P. +3. 3mやY. P. +2. 8mまで掘削した箇所では、掘削予定地内において地下水位の低下が見られる。ただし、調節池に隣接する高台では影響が確認されていない。	
	8	大野川最下流区域はY. P. +2. 8mまで掘削するが、この周辺は一番集落に近くて、地下水を一番とっている地域だと思うので、掘削の影響が心配である。	掘削地周辺の地下水観測を継続的に行い、その状況を確認しながら掘削を進めていく。	
	9	今年は稲戸井調節池内のカマキリがすごく減っているように思う。		稲戸井調節池内の一部では減っているかもしれないが、地域全体では分からない。確実に減っていることを確かめるには、定量的な調査が必要である。
	10	環境調査結果や河川水辺の国勢調査のデータを、会報等に紹介するときにはどこに許可を得れば良いのか。	データの出典を国交省としていただければ許可は不要である。ただし、希少種の位置情報については伏せて掲載してもらいたい。	
	11	今回の環境調査でイノシシが確認されているが、何頭確認されているのか。	イノシシの痕跡による確認のため、何頭かは不明である。	
	12	掘削により周辺環境に問題が無いかわかめるには、ある程度調査しなければならないし、データも集めなければならない。	掘削等の工事を行っている間は、基本的に現在と同じように地下水位や植生、猛禽類の調査を継続する予定である。	
	13	稲戸井調節池のこれまでの環境調査結果について、誰でも確認できるようにまとめておくことが望ましい。 どこかがコアとなり、ネットをとおして情報の集積・公開ができる仕組みがあると良い。		
利用	14	利活用区域について、市が中心となって地元の情報を収集し、地元のニーズを踏まえて整備を進めてほしい。		